引用文献

井手清治，1928．鹿児島県及び神戸産虫癭目録．博物同志會會報，1: 54-57.

池田健一，投稿中．井吹台谷口公園の昆虫類と虫こぶ（付録：神戸市の虫こぶの文献記録）．きべりはむし ISSN: 1884-9377

門前弘多，1929．蟲癭の研究．齋藤報恩會事業年報，5: 295-368. DOI: 10.11501/1120468

中渡瀬亜紀，1992．ヤマフジの葉に形成されるタマバエの虫えい．鹿児島県立博物館研究報告，11: 5-8. ISSN: 0915-9010

巣瀬司，1986．北本市石戸宿の虫えい．寄せ蛾記，48: 743-744．ISSN: 0917-5695

牛山欽司・高橋和弘・ 深山陽子，1997．神奈川県におけるフジ（*Wisteria floribunda* (Willd.) DC.）を寄主とするタマバエ 2 種の発生生態．関東東山病害虫研究会年報，44: 291-294. ISSN: 0388-8258

湯川淳一，1979．高隈演習林および佐多地方で採集されたタマバエのゴール．鹿児島大学農学部演習林報告，7: 85-89. ISSN: 0389-9454

湯川淳一，1988．鹿児島県のタマバエゴール（双翅目：タマバエ科）．Satsuma，37: 175-205. ISSN: 0910-5131

湯川淳一・笹富広一郎・佐藤信輔・松尾和典・藤井智久，2012．宮崎県小林市岩瀬川渓谷で採集された虫えい形成タマバエ類．まくなぎ，24: 1-12. ISSN: 0917-4710

湯川淳一・桝田長，1996．日本原色虫えい図鑑，826pp．全国農村教育協会．東京．ISBN: 9784881370612

屋久島におけるケブカカスミカメの初記録

First record of *Tinginotum perlatum* in Yakushima

ケブカカスミカメ *Tinginotum perlatum* Linnavuori, 1961 は西日本に広く分布しており、幼虫はイシカグマ、イブキビヤクシン、リュウキュウマツなど、広範な植物から見いだされており、成虫は紀伊半島では春先にカエデの花、八重山ではトベラやエゴノキの花で確認された例がある（安永ら，2001）。温帯域では少なくとも年 2 回発生しており、成虫越冬し、冬期には林床のシダ類や雑草のほか、倒木上にたまった落ち葉の下

からも見つかるという。南西諸島ではリュウキュウマツに多く，八重山では周年発生しているとされる。

本種の具体的な分布地として、本州、伊豆（八丈島）、四国、九州、対馬、甑島（下甑島）、奄美（奄美大島）、沖縄（沖縄本島）、八重山（石垣島、西表島）が知られるが（日本昆虫目録編集委員会，2016）、屋久島での記録は含まれていない。また、Yasunaga(1999)でも記録がないことから、屋久島では未記録であると思われる。

筆者は 2017 年 11 月 27 日に鹿児島県熊毛郡屋久島町宮之浦の宿泊施設で、本種が灯火に飛来しているところを撮影したのでここに報告する。

図 6 屋久島のケブカカスミカメ

1ex.，鹿児島県熊毛郡屋久島町宮之浦，27. XI. 2017，筆者撮影（図 6）.

灯火からの記録は八木ら (2003) などにみられ、普通に見られると思われる。

引用文献

日本昆虫目録編集委員会. 2016. 日本昆虫目録 第 4 巻 準新翅類. 櫂歌書房，東京. 629pp. ISBN: 9784434218224

八木剛・中西明徳・稲畑憲昭・杉野広一・植田義輔・勝又千寿代・木全俊明・古賀督尉・高昭・谷口登志夫・中濱春樹・福島秀毅・水野辰彦・森脇竹男・山崎敏雄・吉田武. 2003. 砥峰高原の昆虫相 -2002 年の昆虫調査から-(第一部). きべりはむし 31(1): 1-46. ISSN: 1884-9377

Yasunaga, T. 1999. Revision of the mirine genus *Tinginotum* Kirkaldy (Heteroptera: Miridae) from Japan. Biogeography 1: 39-47. ISSN: 1345-0662, DOI: 10.11358/biogeo.1.39

安永智秀・高井幹夫・中谷至伸. 2001. 日本原色カメムシ図鑑 陸生カメムシ類 第 2 巻. 全国農村教育協会, 東京. 350pp. ISBN: 9784881370896

大阪府におけるオオウロコチャタテの記録と国内分布文献記録

A Record of *Stimulopalpus japonicus* in Osaka Prefecture and literature distribution records in Japan

オオウロコチャタテ *Stimulopalpus japonicus* Enderlein, 1907 は人家の周りにも普通に見られ、岩の表面や人家のブロック塀に生息するウロコチャタテ科の一種である（吉澤, 1999)。国内では Johnson et al.(2020)及び筆者が確認する限り、東京都（伊藤, 1977；吉澤, 2000）、愛知県（間野, 2018)、奈良県（奈良県レッドデータブック改訂委員会, 2017)、岡山県（Enderlein, 1907：この記録は岡山県野生動植物調査検討会（2020）の分布記録整理に含まれていない)、四国県不明（富田・芳賀, 1992)、福岡県（吉澤, 2016）で記録があり、筆者は兵庫県でも記録しているが（池田, 投稿中)、大阪府では大阪府（2000）にも記述はなく、記録がないと思われる。

図 7 大阪府のオオウロコチャタテ

筆者は 2016 年 8 月 26 日 13 時頃、大阪府河内長野市滝畑天神社(大梵天王社)で、本種を撮影しているのでここに報告する（図 7)。

1ex., 大阪府河内長野市滝畑天神社, 26. VIII. 2016, 筆者撮影.

同科には 2 種いるが（日本昆虫目録編集委員会, 2016)、オオウロコチャタテにみられる頭部に 1 対の淡黄褐色の円斑があり（伊藤,